

各 位

2022年8月1日
株式会社リットーミュージック

元 BEAMS の青野賢一による書籍『音楽とファッション 6つの現代的視点』

発売記念トークイベントを開催

8/18（木）下北沢 B&B にてコラージュ・アーティスト M!DOR!と登壇



インプレスグループで音楽関連のメディア事業を手掛ける株式会社リットーミュージック（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：松本大輔）は、元 BEAMS の青野賢一による書籍『音楽とファッション 6つの現代的視点』の発売を記念してトークイベントを開催します。

本書はデヴィッド・ボウイ、セックス・ピストルズ、イエロー・マジック・オーケストラ (YMO) から、BTS、ビリー・アイリッシュまで、様々なアーティスト／ムーヴメントとファッションの話題を通じて、ジェンダー、レイシズム、文化の盗用など、今日のアクチュアルなテーマに迫るエッセイ／論考です。

このトークイベントで青野賢一の特対談相手として登壇するのは、本書のカバーデザインも担当したコラージュアーティスト／グラフィックデザイナーの M!DOR!。現代の問題意識をとおして見えてくる音楽とファッションをはじめとしたポピュラー・カルチャーを語り合います。

開催日：2022年8月18日（木）20:00～

場所：東京・下北沢 B&B

チケットの購入、開催に際しての注意点などはこちら

https://bookandbeer.com/event/20220818_6mf/

チケット料金：

【来店参加（15名限定・1ドリンク付き）】2,750円（税込）

【配信参加】1,650円（税込）

【サイン入り書籍つき配信参加】1,650円＋書籍『音楽とファッション 6つの現代的視点』2,640円＋配送手数料520円（いずれも税込）※イベント後発送

【サインなし書籍つき配信参加】1,650円＋書籍『音楽とファッション 6つの現代的視点』2,640円＋配送手数料520円（いずれも税込）※イベント後発送

【出演者プロフィール】

青野賢一（あおの・けんいち）

1968年東京生まれ。株式会社ビームスにてPR、クリエイティブ・ディレクター、〈BEAMS RECORDS〉のディレクターなどを務め、2021年に退社、独立する。音楽、ファッション、映画、文学、美術といった文化芸術全般を活動のフィールドに文筆家／DJ／クリエイティブ・ディレクターとして活躍している。著書に『迷宮行き』（天然文庫／BCKKS、2014年）がある。

https://twitter.com/kenichi_aono

M!DOR!（みどり）

1986年横浜生まれ。コラージュアーティスト／グラフィックデザイナー／アートディレクター。1800～1950年代の雑誌や紙物の現物を素材に使用したハンドコラージュを特徴とする。「VOGUE JAPAN」、「装苑」、「GINZA」、「ELLE」などの雑誌誌面、山内マリコ『かわいい結婚』（講談社、2015年）、H.P.ラヴクラフト『インスマスの影』（新潮文庫、2019年）など書籍装画のほか、アパレルブランドの広告や、Official髭男dism、Perfumeなどミュージシャンのアートワークも数多く手がけている。

<https://www.dorimiii.com/>

【書誌情報】

書名：音楽とファッション 6つの現代的視点

著者：青野賢一

定価：2,640円（本体2,400円＋税10%）

発売：2022年7月23日



1979年のある日、人気歌手をまとい、3人組で一世を風靡するYMOの前身、お隣で歌の教室に通っていたスタジオ・バンドのラジオステレオ第一RTLのもの
Photo by Masayuki Sakai

と、ここで、日本においてYMOに必要としたものの多くは若者文化の「アップデート」である。ある種洗練を生かせる表現や、古典的な「調性」あるいは「リズム」の「アップデート」が求められた。欧米人が考える典型的な日本人「音」からメロディを「アップデート」して、名詞交換する——といったものを、わたしたちは「切の音」が持つ感情なしに無気味に、そしてある程度は本来の意図も失いつつ楽しんでいくのが通じれば、YMOの音楽や表現がそれまで積極的に音楽に絡んでこなかった若い世代に受け入れられること、大きなムーブメントになったとも考えられようである。



『YMO1978-2013』(2021年)
ライナー・ノーツの最終巻の最終巻によるYMOの完全ヒストリー。組成と「楽譜」の1978〜1983年を第一巻、再結成した1992年以降を第二巻として構成し、いままで知られていなかった楽譜も見られる。アタカ・パルティ・パルティ、永田に於ける変化についての多くは好評を得ている。
著：藤井隆一 挿絵：KADOKAWA
編集：13800円（税別） サイズ：A5判

「切の音」は、YMOの音楽や表現がそれまで積極的に音楽に絡んでこなかった若い世代に受け入れられること、大きなムーブメントになったとも考えられようである。

イギリスのユース・カルチャーの背景
——一九五〇年代から一九七〇年代まで

モダン・ジャズが盛んになり見せた一九五〇年代のアメリカでは、戦後のベビーブームが牽引するユース・カルチャーが勃興してきた。こうしたユース・カルチャーの台頭は他国でも同様に見られた。たとえば、モッズは一九五〇年代後半から一九六〇年代半ばにかけてロンドンで興ったユース・カルチャーだ。一九五〇年代のイギリスにおいては、完全雇用と高度経済成長によって、肉体労働とホワイトカラー、熟練と不熟練とのあいだの所得格差は縮小していった。消費意識も若者層間で「イデオロギカル」な競争を促し、いわゆる「豊かな社会」の到来である。一九六〇年代は「スウィング・ブーム」の時代と称されるが、この文化面の革命の担い手である若者層が熟練したのはい一九五〇年代の「豊かな社会」であり、この文化面は、ほぼ全体が労働者階級からなる巨大なマーケットが出現したのである。「自由市場」若者労働階級からなるマーケットには、アメリカから輸入されたものも多くなかった。ロック、ポップ、コミックス、ロックンロールやリズム・アンド・ブルース、そしてモダン・ジャズのレコード——こうした新しい文化的消費財は、いまや若者の心をつかきとめられたのだ。

「モッズ」がモッズであることはよく知られているが、これは最初期のモッズたちがモダン・ジャズを好んで聴いていたこと由来する。ロックンロールも同様の文化圏で、モダン・ジャズが熟練化した「ベビーズ」(一九五〇年代)は一九五〇年代のロンドン・モッズが舞踏のモダン・ジャズを好んで聴いていたこと由来する。



1964年のロンドン・ベビーズは、スーツとカーを身につけてモーターストリートに走り出す。たくましくイデオロギカルな階級意識は、当時「若者の魂」でもおなじみのモッズ・スタイル。

Photo by Daily Mirror/Photographica/Getty Images

【株式会社リットーミュージック】 <https://www.rittor-music.co.jp/>
『ギター・マガジン』『サウンド&レコーディング・マガジン』等の楽器演奏や音楽制作を行うプレイヤー&クリエイター向け専門雑誌、楽器教則本等の出版に加え、電子出版、映像・音源の配信等、音楽関連のメディア&コンテンツ事業を展開しています。新しく誕生した多目的スペース「御茶ノ水 Rittor Base」の運営のほか、国内最大級の楽器マーケットプレイス『デジマート』やエンタメ情報サイト『耳マン』、Tシャツのオンデマンド販売サイト『TOD』等のWebサービスも人気です。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>
株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証スタンダード市場 9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デ

ザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社リットーミュージック 広報担当

E-mail: pr@rittor-music.co.jp